

☆四旬節第2主日(3月5日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読 (創世記12章 1-4節)

その日、主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福しあなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る。」アブラムは、主の言葉に従って旅立った。

### 第二朗読 (使徒パウロのテモテへの手紙II 1章8-10節)

皆さん、むしろ神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、今や、わたしたちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかにされたものです。キリストは死を滅ぼし、福音を通して不滅の命を現してくださいました。

### 福音朗読 (マタイによる福音書 4章 1-11節)

その後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。

ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」

ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

温かな日差しとともに三月が始まりました。三月は一年でも最も慌ただしい月ですね。受験があり、卒業式があり、お別れ会があり、そして引っ越しありと。また教会でも四旬節の真ただ中であり、黙想会がありゆるしの秘跡があり、洗礼の準備があります。それだけに外的なことに忙しくて、主の受難と復活の準備がおろそかにならないようにしましょう。今日の聖書朗読では神さまが私たちにその準備の必要性を伝えてくれます。復活祭の準備のために何が大切なのか一緒に考えていきましょう。

### 第一朗読（創世記 1 2 章 1 - 4 節）

主なる神はアブラムに対し、住み慣れた土地を後にして主が示す土地に行きなさいと言われます。これはアブラムに対しまだ私たちに對し慣れた生き方から離れて、つまり神を知らない生き方から離れて、神とともに生きるように勧められているのです。そのように生きることによってはじめてアブラムはそして私たちは主の祝福に入り、わたしたちゆえに他の人々も主の祝福に入るようになると言っておられるのです。旧約聖書におけるイスラエルの歴史は単にイスラエルだけの歴史ではなく、私たちと神とのかわりの在り方を示すものです。

## 第二朗読（使徒パウロのテモテへの手紙Ⅱ 1章8-10節）

パウロはテモテに対し「私たちを呼び出してくださったのは・・・」と述べて、創世記のアブラムを思い出させています。そしてこの招きは私たち自身の力によるのではなく、主なる神のご計画によるものだとも述べています。私たちの今ある信仰も同じように主なる神からの招きによるものであると述べているのです。この神からの招きは主イエス・キリストによって与えられたのです。招きとともに与えられる主の指し示す土地、すなわち不滅の命を指し示してくださったのです。それまでのアブラムに対する主の祝福は子孫の繁栄と神が常にとともにおられるというものでしたが、イエスはそれらを超えた不滅の命、復活の命の約束に変えられたのです。

## 福音朗読（マタイによる福音書 4章 1-11節）

マタイはイエスのご変容を私たちに伝えています。それまでのイエスの姿とは全く違った「顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった」のです。これは何を意味しているのでしょうか。一緒にいたペトロたちはその姿をこれらの表現でしか表すことができませんでした。父なる神の子イエスの姿のほんの少し、いや本当の姿は何も伝えきれていないというべきでしょう。そしてモーセとエリヤが現れています。これは父なる神のもとにいる人々の代表と言えるでしょう。これに対しペトロはその素晴らしい光景を見て「私たちがここにいるのは素晴らしいことです」と喜びを表しています。創世記の言う「主の祝福に入る」とはまさにこういうことだとペトロたち弟子は知ることになったのです。イエスが弟子たちにこのような素晴らしい体験を味合わせたのは、来る受難に続く迫害にあっても主の招きの目的地を見失わないためであったようです。私たちも洗礼による招きに応じてここまで来ていますが、神の招きの約束の地を忘れないようにしましょう。



P.S.

春の到来です。神さまの創造された世界は本当に素晴らしいです。寒く冷たい何も生き物の存在を感じなかった冬ですが、地面の下では着々といのちの息吹が準備されていたのです。さあ創造主である神のすばらしさを探しに出かけましょう。マスクを外して！

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光